

事例報告

生物多様性.com

公益財団法人日本自然保護協会 (NACS-J) 事務局長 鶴田 由美子 氏

こんにちは。本日は、私、日本自然保護協会の鶴田より「生物多様性.com」というウェブサイトについてご紹介させていただきます。

その前に日本自然保護協会の紹介を少しだけさせていただきます。65年ほど活動しております純国産の自然保護団体です。全国の山のとっぺんから海や川、里山をフィールドにしており、生物多様性の損失を防ぐための保護地域制度や法制度の提案をしたり、自然とともに暮らす地域づくり、自然資本を活かした地域づくりを進めるために、全国の個人や団体、それから、地域の方々、研究者の方々、行政の皆さんと連携してさまざまなプロジェクトを推進しております。

また、ボランティアリーダーとして自然観察指導員の養成を行っていきまして、農家の方等でも指導員になってくださっている方々もいらっしゃいます。身近な自然を見守ったり、田んぼや畑の生き物を観察し、普及啓発の教育活動を進めていただいています。それから、全国共通のテーマで市民が調査を行う「自然しらべ」や、里山等の身近な自然環境の調査として、環境省事業のモニタリングサイト1000里地調査では、全国200カ所ほどの里地で、生き物調査や水質等の市民調査も担当しております。

ひとつ活動事例をご紹介します。宮崎県の綾町は、2012年にユネスコエコパークという保護地域に登録されました。保護地域ということ、原始的な自然を守るといような堅いイメージがあるかと思うのですが、エコパークでは奥山から里山まで全部含めての保護地域としてユネスコという国際機関に登録されています。

綾町は1980年代から自然生態系農業の町ということで町ぐるみで地域のブランディングを進めてきました。途中、開発問題等もありまして、当会も森林保護活動のお手伝いもしていき中で、ユネスコエコパークの登録を目指す活動も支援させていただきました。たとえば「ふれあい調査」といって地域のいろんな価値、これは伝統文化や歴史等も含めて自然環境とか、水資源ですとか、農地も含めて、みんなで地域の方々と調査して見える化しました。綾町は早い段階からこうした、自然を活かした地域づくりのブランディングに成功して、今人口減少等も止まるという勢いで、活躍されている方々が増えています。

このように当会の活動でもさまざまに、農家の方々や、林業家の方々とお話し、活動する機会が多いのですけれども、やはり多く聞かれる



■自己紹介 ～日本自然保護協会 (NACS-J)

➤ 1951年設立の自然保護NGO

➤ 国立公園、世界遺産、森林生態系保護地域、ユネスコエコパーク...
自然を守るしくみをつくり、
守った自然を活かした地域づくり



緑の照葉樹林
プロジェクト
(林野庁九州森林管理局・
宮崎県・綾町・
てるはの森の会・
日本自然保護協会)



赤谷プロジェクト
(林野庁関東森林管理局・
地域協議会・日本自然保護協会)

日本自然保護協会

■自己紹介 ～日本自然保護協会 (NACS-J)

➤ ボランティアリーダー、自然観察指導員の養成 (1978～)

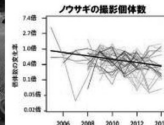
➤ 市民調査による、里やまや身近な自然の保全管理・提言



・自然しらべ (1995～)



・モニタリングサイト1000
里地里山



日本自然保護協会

守りたいものは、暮らしを支える 自然の豊かさ＝生物多様性



宮崎県綾町上畑地区
「人と自然の
ふれあいマップ」

綾町は自然生態系
農業の町。
奥山から里やままで
含め、ユネスコエコ
パークに登録された。
ふるさと納税でも
早い時期から成功。
H27国勢調査でも
前回比で人口が
増加に転じた！

日本自然保護協会

出所：登壇者講演資料

悩みとしては、自然環境にやさしい農業や林業をしたいけれども、手間がかかるし、販路が狭く流通面での苦勞が多いということです。地域ぐるみでブランディングに成功しているところではいろんな販路も開拓されていますが、独自の活動での個人の農家さんや事業体ですと、いろんな形で表彰されたり、認定されたり、自治体や、NGOや、企業の協力等を得ても、販売としては、独自サイトやSNS、関係先の機関等、限られたところで広報していくことが多いという状況です。先ほどのご発表にもあったように、お金を払っても良いと考えてくださるような意識の高い消費者たちが、実際にその商品や商品、加工品も含めてどこで買えるのか、といった情報が知りたくても、その肝心な情報は薄まってしまっていることが多いのです。公的な機関の紹介ですと、保全活動の中身に焦点が当たるといことが多く、「では、どこで買えるのか」という情報が意外と少ない。この情報不足の解決をお手伝いできないかということを考えてみました。

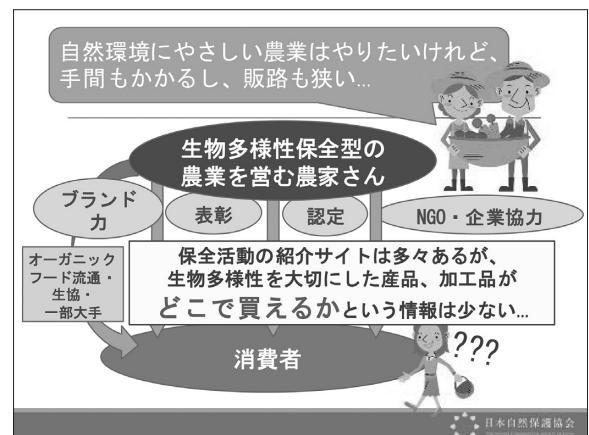
どうしたら何かを選んだり、買ったりするときに、生物多様性を大切にすることにコミットできるチャンスがあるということを経験者側に示せるだろうかということを経験者目線で考えてつくったのが「生物多様性.com」なのです。

コンセプトとしては、「もしもショッピングサイトにともと生物多様性保全が組み込まれていたら？」ということでした。たとえば大手のネットショップに生物多様性保全に貢献する商品ばかりが並んでいたらどうなるだろうかという仮想現実ですね、それをイメージしてみました。

これができあがった「生物多様性.com」というサイトのトップページです。最大の特徴は、消費者目線で生物多様性保全に貢献する商品やサービスを探せるということです。

左側にメニューがあるのですけれども、活動紹介とか、そういう構成ではなくて、完全にショップサイトのメニューになっております。カテゴリーでは食品とか、飲食店、ファッションとか、日用品というのが一番親のカテゴリーに並んでいて、サブメニューは食品からですと酒類、飲料とか肉、加工品とか、米という具合に展開します。たとえばこの米・穀類というところを押しますと、こんな感じで米・穀類に関わる記事だけが選べるというような構成になっています。いくつか中の記事をご紹介します。

これは石川県の「生きもの元気米」と「すずめ野菜」の取り組みのお話ですけれども、この「生きもの元気米」は田んぼ1枚1枚の生き物調査を農家の方がされていて、地域の絶滅危惧種リストまでついたり、すごい活動をやっておられます。野菜の方も、外来植物を除去して、それを堆肥に利用してやるという生物多様性保全に大きく貢献されているところです。



出所：登壇者講演資料



出所：登壇者講演資料

どこへ行ったら買えるのかという情報は、それぞれのお米や野菜を販売しているネットショップにダイレクトにリンクを張るという形でご紹介しています。

次は宮城県の登米市のお話ですが、伊豆沼というラムサール登録湿地で有名なマガンとかヒシクイとか、非常に多くの渡り鳥が来る地域です。ここでも冬水田んぼ等で水鳥の休息地になるような保全活動をしながらいろんな生産活動を行っていらっしゃるということで、これも購入先情報をダイレクトにリンクするという形で、ご紹介しています。

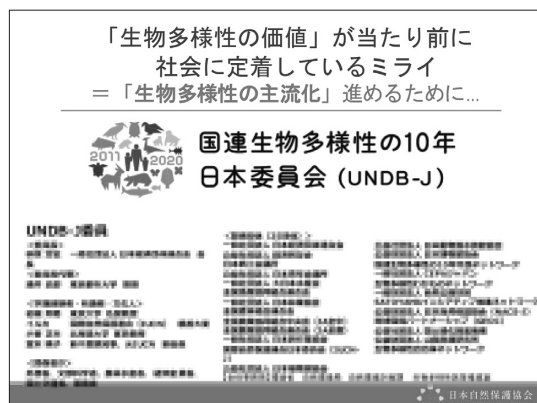
実はこのサイトを設計するにあたって、どんな産品や商品にも生物多様性の価値が当たり前に着しているという将来をまじめに考えている委員会がごぞいます。「生物多様性の主流化」を進める目的でつくられました「国連生物多様性の10年日本委員会」、略称UNDB-Jという委員会です。委員は大変多いのですが、委員長は経団連の会長さんで、学識経験者のほか、関係省庁も外務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省が参加し、委員会の全体事務局は、環境省の後ほどご登壇もされます自然環境局の生物多様性政策推進室が担われています。関係団体は25団体ありまして、経済界のほかに農林関係では、日本林業協会や全国森林組合連合会、全国農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会といった団体が入っていらっしゃいます。普及啓発団体も多く、わたくしども日本自然保護協会も委員です。そのほか生物多様性自治体ネットワークも入られて、自治体等とも連携をとっている委員会です。

皆さんご承知の通り、愛知目標が2010年に決議されまして、国連生物多様性の10年というのが2020年までになっています。この委員会ではとにかくありとあらゆるセクターの連携をして、生物多様性保全に貢献していこうということで集まった委員会です。

この場でいろいろ議論をしてきたのですが、先日10月に発表されたロードマップでは「目指すべき社会像」という文章があります。ここには、「自然の恵みを意識したライフスタイルへの転換を通じた生物多様性の保全と持続可能な利用が組み込まれた自然共生社会の構築と、持続可能な社会の実現」ということが示されました。さらに、生物多様性保全を進める3つの大きな活動の中でも、消費活動、産業活動を特出ししています。認証商品等の環境に配慮した多種多様な商品、サービスの価値が広く認識されることで、それら商品、サービスが流通し、選択する消費者が増えている、こういう状態を目指そうと



出所：登壇者講演資料

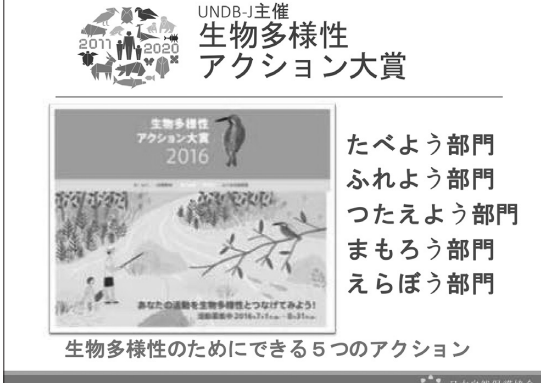


出所：登壇者講演資料

「生物多様性.com」は、実は農産品だけではなくて、ありとあらゆる商品、サービスを載せていこうということで、さまざまな記事を掲載しています。たとえば、自然をそのまま楽しむキャンプ場ですとか、こちらの記事は自動車保険を選ぶときに、契約書を紙でもらわないでウェブでもらえると、その費用の分を生物多様性保全活動に回せますというプロジェクトがあって、そういう自動車保険を選ぶときも、実は生物多様性保全に貢献できるタイミングがあるんですよ、というようなことをご紹介しています。

この「生物多様性.com」で掲載しました情報は、UNDB-JのFacebookでもご紹介をしています。掲載情報を大募集しておりますので、ぜひ皆様の生物多様性保全の取り組みによる産品や商品、サービスの情報をお寄せいただきたいと思います。先ほどの認定連携事業や、アクション大賞の受賞団体でなくても記事は掲載可能です。委員団体の推薦、たとえば全国農業協同組合中央会や全国農業協同組合連合会、農林水産省からご推薦いただくこともできますし、まずはお問い合わせいただければ、当会、日本自然保護協会も委員ですのでご相談しながらご紹介ができます。左下の方に掲載記事・情報提供フォームがありますので、ぜひ情報をお寄せください。こうした記事がどんどん増え、いろんなカテゴリーが展開し、生物多様性当たり前社会というのが本当に仮想でなくて現実社会になっていけば、それこそが主流化であると思っています。

以上でございます。ありがとうございました。



UNDB-J主催
生物多様性
アクション大賞

たべよう部門
ふれよう部門
つたえよう部門
まもろう部門
えらぼう部門

生物多様性のためにできる5つのアクション

日本自然保護協会



生物多様性のためにできる5つのアクション

購入先情報
「加茂女の顔おやき」
ネットショップへのリンク

生物多様性
アクション大賞
受賞紹介へのリンク

日本自然保護協会



生物多様性.com
その判断に「生物多様性」をプラスするミライ

自然をそのまま楽しむキャンプ場「無印良品キャンプ場」

行き先情報
へのリンク

認定された
連携事業の活動へ
へのリンク

日本自然保護協会



生物多様性.com
その判断に「生物多様性」をプラスするミライ

情報募集中!

生物多様性.com
へ掲載希望の情報を、
ぜひこちらのフォーム
からお寄せください!
エクセルファイルの情報募集
フォームもあります。

お問い合わせ:
undbj@nacsj.or.jp
03-3553-4101
担当: 鶴田

このサイトについて
お問い合わせ
個人情報保護方針
依頼・寄稿について
お問い合わせ
お問い合わせ

日本自然保護協会
The Nature Conservancy Japan

生物多様性.com

出所: 登壇者講演資料